

八王子市立松が谷小学校
校長 源田 佐知子

目指す学校

八王子市立松が谷小学校は、八王子市ゆめおり教育プランに則り、公教育の目的である基礎学力の定着・向上及び人間形成を行う。一人一人の子供が自らの可能性を信じ、変化の激しい社会をたくましく生き抜く「心豊かに粘り強くやり抜く子供」を育てる学校づくりを行う。そのために子供たちが学ぶ喜びや励む楽しさを体得できる教育活動を行う。

1 目指す学校

(1) 社会貢献する人格を育成する学校

目指す児童像(教育目標)「げんきで なかよく がんばる子」

げんきな子	・明るく、活発で、個性を伸ばそうとする子 ・心と体の健康づくりに主体的に取り組み、たくましく生きる子
仲良くする子	・自ら考え行動できる人間性豊かな子 ・自他を尊重し、思いやりの心をもって共に生きようとする子
がんばる子	・自ら考え判断する力を伸ばし、自分の意思を発表する子

児童が自分の力を発揮し、粘り強く取り組み、自信をもって学習し、学びを生かせる学校とする。また、児童が思いやりの心もち、ともに伸びる学校として、児童のよさや可能性が発揮される学校をつくる。

(2) すべての児童の自己実現に向けて、教職員が一致協力し、全力を傾ける学校

常に指導力向上を目指し、高い研修意欲をもっている教師

職務遂行に責任をもち、教育公務員としての自覚・社会性を身に付けている教師

児童の心を正面から受け止め、児童の自己実現を支援できる教師

教師自身が児童の教育における重要な学習環境であることを深く自覚できる教師

児童が自らの生き方や学び方を考えていくことを指導・支援できる教師

(3) 学校・家庭・地域が互いに協力して児童の育成に努める開かれた学校

「あいの森の学校づくり」

保育園・幼稚園・中学校・高等学校・大学が近隣にある恵まれた環境を生かし、連携・交流を深めることで、小中一貫教育を軸とした学びの連続性を重視した教育活動を行う。

学校から積極的に情報を発信して、学校・児童への理解を深める。

地域の教育力を活用すると共に、地域の方々との連携を図り、地域に愛される学校を作る。

学校評議員制度や学校評価アンケート(保護者、児童) 児童による授業アンケートにより、学校に対する期待や意見をよく聞き、教育活動に生かす。

関係機関との協働による授業の展開や地域の特性を生かした特色ある教育活動を行う。

中期的目標と方策

平成24・25・26年度の3カ年を通して、以下の内容について取り組む。

1 学力向上について

(1) 確かな学力を身に付けさせる教育を推進する

基礎基本を徹底する

すべての学習の基礎となる「読む力」「書く力」「計算力」を向上させる指導を継続する。

児童が自ら学び、自ら考える力を育てるための授業改善を図る

昨年度より始めた研究「伝える力を高める指導法の工夫」の成果と課題を踏まえ、言語活動の充実を図る。また、児童の自尊感情や学習意欲を高める授業の展開を行うとともに、自ら進んで学び、思考する児童を育て、学んだことが生きて働く力となるよう、授業改善に努める。

豊かな表現力を育成する

校内の言語環境を整えて、正しい言語感覚を身に付けさせ、自らの思いや願い、考えを適切な言葉を用いて豊かに表現する。外国語活動を通し、異文化理解及びコミュニケーション力を育てる。また、児童の作品や学習成果等を掲示し、感性や個々の能力を高める。

松が谷の地域性を生かした教育活動を推進する

地域の教育力を生かした人材バンクを活用し、地域で地域の未来を託す子供の育成を支援していく体制作りをする。松が谷の自然や文化などに触れ、学ぶ活動の中で郷土を愛する心を育てる。

2 健全な心身の育成について

(1) 思いやりの心を育てる教育を推進する

基礎的生活習慣を身に付けさせる

「早寝・早起き・朝ごはん」を合い言葉に、児童の生活リズムを家庭と協働しながら確立し、心身ともに健康な子供に育てる。また、年3回「おはよう週間」の実施や日常的な挨拶の励行や正しい言葉遣いなど、よい習慣づくりの指導を進める。

豊かな人間関係を育てる

学級経営を基盤とし、児童理解を深め、豊かな人間関係を構築できるようにする。縦割り班活動や全校遠足などの活動を通して、集団の一員としての自覚を深め、自主的な態度を育てる。

たくましく生きるための心と体の健康をつくる教育を推進する

体力を向上させる指導を計画的に行う。食育を推進し、児童自らが健康に留意し、健康づくりに積極的に取り組む指導をする。また、スクールカウンセラーとの連携を深めるとともに、子供の心の居場所となる教育環境をつくり、教育相談を充実させる。

安全管理、安全教育を推進する

危機管理意識を高め、危機の予見・未然防止に努め、防災に対する意識を高める。事故・災害等の発生時には迅速・的確な対応ができる組織をつくる。報告・連絡・相談を徹底する。また、関係機関や地域との連携を深めた総合防災への対応を整える。

3 地域と共に児童を育成する開かれた学校づくりについて

(1) 地域の思いや願いを受け止め、期待に応える教育を推進する

教育支援ボランティアや学生インターシップなどの協力を得、教育環境の充実を図る。

積極的に教育活動を公開するとともに、学校便り・ホームページ等の情報を発信する。

保護者・地域・関係諸機関と連携して、交通安全指導・防災指導・防犯指導を行う。

花や鳥など身近な自然を愛すると共に環境保全等について、地域の方と協力して行う。

学校図書館ボランティアの協力の下、学校図書館の活性化を図る。

今年度の取組目標と方策

1 教育活動の目標と方策

- (1) 小中一貫教育モデル校としての研究成果を基盤とし、鹿島小学校、松が谷中学校との連携をより深く、義務教育9年間を見通した教育課程の実践と改善を図る。
- (2) 言語活動を重視した教育活動を展開するため、校内研究の体制の一層の充実を図る。また、児童に確かな学力を身に付けさせるため、授業改善を通して基礎的・基本的な力を身に付けさせる。
- (3) 「あいさつ」運動を推進し、基本的生活習慣の確立を目指すとともに、道徳の時間においては重点項目を「自立・自律」「生命尊重」とし、心の教育の充実を図る。
- (4) 保・幼・小・高・大の連携や保護者・地域の教育力を結集し、豊かな教育環境をつくる。
- (5) 本校の通級指導学級や関係機関との連携を図るとともに、特別支援教育の充実を図る。

2 重点目標と方策

(1) 小中一貫教育

全体会及び学習(国語、算数・数学、英語・外国語)交流、生活指導、特別支援教育の分科会形式による取組及び夏に小中合同の研修会を2回実施し、義務教育9年間の教育課程について研究をする。

年1回(9月)小中合同で生活アンケートを実施し、健康・安全について小中で児童・生徒の実態を把握し、分析することで、基本的生活習慣の確立を図る。

中学校体験授業・部活動体験、小中交換授業を実施し、学力向上及び小中の滑らかな移行を図る。

(2) 学習指導(学力の向上)

思考力・判断力・表現力等を育むため、言語活動を充実させる。また、繰り返し学習や家庭での復習などを通して学習習慣を身に付けさせ、基礎基本となる、読み、書き、計算の力を高める。

算数科における少人数習熟度別授業の実施を通して個に応じたきめ細かな授業を実施する。また、特に授業においては児童の思考力・判断力・表現力の育成に重点を置く。

ALT及び外国語活動における地域人材の活用を年間通して行うことで、コミュニケーション能力を高めるとともに、異文化理解教育を進める。

毎週2回の朝読書、年間3回の読書推進期間、保護者による読み聞かせを通して、読書に親しませるとともに、話し合い活動を重視し、言語活動の充実を図る。

(3) 生活指導(児童の健全な育成)

毎週的生活指導終会及び生活指導全体会の研修会を年2回実施し、迅速・正確・丁寧な指導を行うため、組織的に対応できる体制をつくる。

特別な教育的支援を要する児童に対し、月1回の校内委員会や特別支援教育コーディネーターを中心とした保護者との連携、関係諸機関との連携を図ることで適切な体制を作る。

南大沢警察署と連携し、児童の安全・危機意識の向上を図るため、6月にセーフティ教室を実施する。

自他の生命を尊重し、「あさがしよりもいいとこさがし」を合い言葉に、児童が思いやりをもった言動をすることでよりよい人間関係をつくり、いじめや不登校児童ゼロを目指す。

スクールカウンセラーによる月1回の朝会時での児童への講話を行う。また、週一回の相談日には多くの相談を受ける体制を作り、児童・保護者等へのきめ細やか対応を行う。

(4) 健康指導(体力強化・食育を通じた体づくり)

食育指導の授業を年1回授業公開し、食に関する意識を高める。

全校なわとび月間(11月から12月)、全校マラソン月間(1月から2月)を行い、個々の能力に応じたためあてをもたせ、体力向上に努める。

(5) 保護者や地域との連携(地域の教育力の活用)

子ども放課後教室を毎週水・金曜日に、学習や遊びなど地域の方の協力の下、実施する。

松が谷まつりや地域音楽祭など地域の活動へ積極的に参加する。